

議会広報広聴委員会

令和2年9月7日(月)
個人一般質問終了後
第4委員会室

- 【出席者】三浦委員長、西川副委員長、
村武委員、川上委員、小川委員、野藤委員、笹田委員、芦谷委員、
佐々木委員、澁谷委員
- 【事務局】下間次長、小寺書記
-

議題

1 はまだ議会だよりVol.59について……………資料1

- (1) 掲載記事及び原稿提出締切について
- (2) ページレイアウトについて
- (3) その他

2 広聴機能の拡充について……………資料2

- (1) 宿題整理
- (2) 各地域協議会との意見交換会
- (3) その他

3 その他

- (1) はまだ議会だよりminiへの掲載内容

宿題評価シート

資料2-1

分類	難易度	予算	有効性	備考
YouTube	-	-	-	広報機能のため、評価なし。
Zoom活用	○	△	○	学生へのアプローチは強化すべき。県立大学との連携はおもしろいが、体制の整備や参加者への案内・周知などに労力が必要。
意見交換	◎	◎	◎	頻度を上げるには常任委員会で取り組むべき。⇒申入れ各委員会に申入れることにより実施可能。テーマを選定することで有効な意見の聴取が期待できる。
イベント出店	○	△	○	予算がネック。露出を高める効果は期待できるが、広聴機能は未知。コロナ禍の中では難しい。
議会報告会	-	-	-	実施済み及び開催を見合わせているため、評価なし。
市報折込	△	△	○	物理的に難しい点が多い。予算やタイミング。コストに問題あり。miniはウェブで定着させる。
市民一日議会	○	○	◎	予算がかかるが、発言したい市民をピックアップできる。どのような発言があるかがポイント。前任期の申し送り事項もであり、実施の方向で再検討すべき。
出張相談	○	◎	○	仕組み化が難しい。議員個人の活動との切り分けが難しい。
陳情	○	◎	△	案内はできるかもしれないが、どちらに陳情するかは陳情者の自由。陳情を出しやすくすることは意義があるが、市長への陳情の共有は議会としての本質的な広聴にはならないのでは。
読者アンケート	-	-	-	実施済みのため、評価なし。
申入れ	◎	◎	○	意識醸成。各委員長の行動変容による。『意見交換』とあわせて委員会での実施を恒常化させる。

令和 2 年 9 月 日

総務文教委員会	西 村	健	委員長
福祉環境委員会	柳 楽	真智子	委員長
産業建設委員会	串 崎	利 行	委員長
議員定数等議会改革推進特別委員会	牛 尾	昭	委員長
自治区制度等行財政改革推進特別委員会	澁 谷	幹 雄	委員長
中山間地域振興特別委員会	田 畑	敬 二	委員長

議会広報広聴委員会

委員長 三 浦 大 紀

委員会広聴機能強化に向けてのお願い

本委員会は、議会全体の広報及び広聴機能の充実を図ることを目的に活動しておりますが、市民に対して議会の活動状況が十分に伝わっていないという課題を持ちながら、はまだ議会だよりのリニューアルや読者アンケートの実施などに着手いたしました。

先般行われた議員定数等に関する市民アンケートの集計結果においては、市民にとって「自身の意見が届きにくい現状にある」ことが明らかになり、当委員会としても重く受け止めたところです。

この状況を改善するには、本委員会で企画する地域井戸端会の実施及びその見直し等だけでなく、まさに議会全体として、課題意識を共有し取り組むことが必須であり、各委員会活動における広聴機能の拡充が必須であることを本委員会において共有いたしました。

各常任委員会及び特別委員会におかれましても、下記事項について何卒ご理解ご協力いただけますようお願い申し上げます。

記

- 1 各委員会の所管事務について、関係団体等との意見交換の機会を積極的に設けること

(テーマ設定がしやすく、議論を深めやすいことから各委員会で行うことが適当と考えました。井戸端会議は広く意見を拾い上げることを目的としているため、情報収集にとどまっています。)

- 2 重要案件も含め、所管政策について、市民との対話の機会づくりを意識し、意見・要望の収集に努めること

(政策形成サイクルにおける、市民参画をより明確にするためです。対話の場をより設けることで、市議会への理解が深まるものと考えます。)

以上